

# やすらぎだより

10  
月  
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

コラム第136号

## 「成るか成らないか」

施設長 植田 誠



法人設立40周年記念事業の一環として、西側敷地内の駐車場整備事業が始まって一年が経過する。大きく景観が変わったわけではないが、着実に土入れは進んでいる。‘豊洲’に盛り土はなかったが、こちらの盛り土は存在する。時間をかけながら、慎重しくもありそして判然に。記念事業としての意味を噛みしめつつ。

本事業は法人資金に頼らず、理事長を始めとする役員等の寄附金によって賄われた。皆が40年前の設立経緯に思いを馳せながら、真実の形としてこの一年を見守ってきた。

駐車場としての形がほぼ整うと、その広さから敷地全体の構想に話は動く。整備事業は一旦完結し、次のステップに進む。となると、当然法人としての事業にて正式に計画し定められた流れを踏むこととなる。詰まり、現段階では未定だ。しかし、未定であるからこそ構想は自由に抱ける。成るか成らないかは別として、希望は発し想いは伝えられる。

早速、生活環境改善委員会のH主担当が発してきた。

「我々にはプランがあります」

発信力が決して他者より強烈なわけではない彼にしては、その一言には力がこもっており、‘我々’という言葉には委員会の代表者であるという責任感がみなぎっていた。

「絵を書いて、職員会で提案し総意を得れば」

成るためのプロセスを、私は提案した。

彼らのプランは屋根付きの休憩所、今風に言うと‘ガーデンテラス’、立案の背景には解消しきれない課題が見える。緑豊かな折角の環境をご利用者は十分に活かしきれないこと。ご家族との団らんにも活かしきれない。これまでスタッフの誰もが感じていた、如何ともし難い現実に向けて声を上げる難しさを。目的は形あるものを造ること、さりとしてその過程こそが重要だ。意味ある経過と中身を目指し。

繰り返す、成るか成らないかはわからない。



### 社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 天理市ひとり暮らし
- 高齢者世帯等見守り事業
- 低所得高齢者等住まい・生活支援モデル事業